

常設展評価シート(1/3)

施設名	大阪歴史博物館	展覧会名	常設展示
-----	---------	------	------

概要・実績	目的	古代の難波宮から近代現代の大大阪時代までの「都市おおさか」の歴史を、実物資料、原寸大再現・模型・大型映像等により紹介する。					
	会期	平成22年4月1日～平成23年3月31日				会期 307日	
	主催	大阪歴史博物館					
	共催・後援						
	協賛・助成						
	観覧料	大人600円、高大生400円		無料対象者	中学生以下、市内在住65歳以上		
	観覧者総数	203,030人	有料入場	90,736人	有料44.7%		
	作品件数	330件					
	関連事業	・特集展示 ・展示解説 ・ハンズオン ・わくわく子ども教室 ・スタンプラリー その他 ( )					
	企画・実施	大阪歴史博物館					
	成果	自己点検の実施を通じ、特集展の改善や常設展での外国語表記の充実を行った。開館10周年にあわせた様々な企画を通じ、これまでの入館者への感謝を表すと同時に今後の利用促進を促し、新たな博物館の在り方を模索した。子ども向け事業の展開も行った。					
	補足事項						

常設展評価シート(2/3)

施設名	大阪歴史博物館	展覧会名	常設展示
-----	---------	------	------

定 量	目 標	入場者数	予算(千円)	外部資金	総事業費	観覧料収入	その他収入	収入合計(千円)	図録販売冊数
		実績	230,000人	65,548			50,474	531	51,005
評価	達成率	203,030人	54,262			43,405	531	43,936	514
		88.3%	82.8%			86.0%	100.0%	86.1%	100.0%

定 性	実績・伝統の継承と新たな魅力創出	評 価 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪の都市の歴史を「難波宮の時代」「大坂本願寺の時代」「天下の台所の時代」「大大坂と呼ばれた時代」に分けて、実物資料の他に、解説パネル、映像資料を駆使して見せる展示は内容が豊富で、見ごたえがある。展示解説も、学術成果に基づいて丁寧になされている。とりわけ、難波宮と考古関連の展示は非常に充実している。</li> <li>・年間を通じて開催されている「特集展示」は、多彩な内容で、展示内容を豊富にしている。</li> </ul>
		改 善 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な展示が行われていることもあって、初めて館を訪問する入館者にとって展示の意図が理解が難しい展示コーナーが見受けられる。また、展示をわかりやすくするために設けられた解説パネルが、その量の多さにより、意図に反して観覧者には煩雑に感じられる場合があるようにも見受けられる。観覧時間が余りない入館者や初心者が最初に読むべき解説が明確になることが望まれる。魅力ある展示を多様な観覧者に応じて理解してもらうために、展示意図が十分伝わる工夫や観覧者の理解能力等に応じた展示に一層なっていくことを期待する。</li> <li>・歴博の常設展示は、展示替が可能な範囲が比較的小さく、「歴博の展示は一度見ればよい」と受けとめられている面がある。来館の度に新しい発見があることを入館者にアピールすることが望まれる。常設展示の実物資料の展示更新をもっと頻繁に行うことや「特集展示」の更なる充実を期待したい。</li> <li>・常設展示の展示替情報、「特集展示」に関する情報を効果的に発信できるように、広報体制の充実を図ってほしい。</li> </ul>
評 価	様々な来館者への対応	評 価 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示の他に、調査研究成果に裏づけられた歴史講座、体験型事業その他の教育普及事業を数多く実施しており、多様な事業展開を図っている。</li> <li>・展示解説は、日本語の他に、英語、ハングル、中国語で行われおり、外国人の入館者の利便を図っている。国内の博物館の中でも高いレベルでの対応ができています。また、図書室も、一般観覧者向けの図書室としてはよく整備されており、歴博の魅力のひとつとなっている。</li> </ul>
		改 善 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴博は、多彩な顔をもつ大阪の歴史と文化を扱う基幹的な博物館として幅広い事業の展開が期待されている。また、社会教育・文化施設としてだけでなく、観光拠点としての役割もこれまで以上に期待されている。定評のある難波宮と考古関連の展示以外の展示について一層の充実を期待する。</li> <li>・入館者の多くが、歴史上の人物に興味と関心をもっていることを考慮して、大阪に関係する人物に焦点をあてた展示の充実にも留意してほしい。</li> <li>・開館後の10年の経験を踏まえ、今後どのような展示が求められているかを中長期的に検討していくことを期待する。昭和、とりわけ高度経済成長以降の時代についても、展示の対象として積極的に取り上げることを期待する。</li> <li>・大阪のもつ歴史や都市としての魅力をアピールする場として、歴博には、市内在住者だけでなく、市外、海外からの入館者等幅広い入館者をターゲットにした事業展開を期待する。</li> </ul>
	連携による総合力の発揮	評 価 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の諸機関・団体、個人との連携は、博物館の力を高める上で極めて重要である。様々な機関・団体等との連携が行われ、効果をあげつつあることは評価できる。</li> <li>・展示、共通チケットの発売等、大阪城天守閣との連携が進みつつあることを評価する。</li> </ul>
		改 善 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その設立起点になっていると思われる大阪の歴史という点からは、大阪文化財研究所では現在どのような発掘が行われ、また、どこで展示されているか等のコーナーがほしい。</li> </ul>

常設展評価シート (3/3)

ニーズに即し効果的な事業展開	評価点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館の規模から見て決して十分とは言えない職員数で、調査研究活動、資料収集、保存、展示、入館者向けの多様な事業を展開していることに敬意を表する。</li> <li>・博物館の多くが広報活動に多くの課題を抱えている中、新たな観客層に向けた広報に取り組んでいることを評価する。</li> </ul>
	改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の規模・水準の高さに比べると、博物館の広報力・情報発信力は弱い。平成23年度の活動実績を踏まえ、今後、広報体制の抜本的な強化が行われることを期待する。大阪市博物館協会としての取り組み、協会傘下の各館相互の連携による取り組み、歴史系博物館相互の連携等取り組みの在り方について検討が行われ、効果的な取り組みが行われることを期待する。</li> </ul>

総評	評価点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館から10年間が経過する中で多くの課題を抱えながらも、スタッフの努力により、博物館の基礎をつくり、歴博の事業スタイルを作ってきたことを評価する。</li> <li>・開館後10年間の成果と経験とを踏まえて、開館10周年関連イベントの開催を始め魅力的な展示や多様なイベントを開催したことを評価する。</li> <li>・現代美術とのコラボレーションや「聞き耳プロジェクト」など新しい事業への取り組みが始まっていることを評価する。</li> </ul>
	改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化、少子化等人口構造の変化が進み、社会が成熟化する中で、歴史系博物館には、地域の文化資源を調査研究、展示することを通じて地域社会に貢献することがますます期待されている。とりわけ、関西、大阪府、大阪市の活性化が大きな課題になっている折り、開館後の10年間に築いてきた成果を踏まえ、成熟する大都市の基幹的な博物館にふさわしい博物館運営を展開していくことを期待する。</li> <li>・博物館の基本は、質の高い事業運営の実施である。調査研究を基礎にした運営、中長期的な視点に立った事業運営が基幹的な博物館の運営には重要である。財政が厳しい中求められている効率化な事業運営に十分留意しながら、博物館活動の基礎となる部分を強化できるように博物館の運営が行われることを期待する。また、調査研究の成果を多様にわかりやすく発信することを期待する。</li> <li>・市民への存在感のアピールの必要性や博物館の厳しい財政状況を考慮すれば、入館者数と収入について目標数を着実に達成していく必要がある。</li> <li>・入館者と博物館のつなぎ方をどのように構築していくのかについて検討し、博物館のヘビーユーザーを増やしてほしい。</li> <li>・現在の指定管理者制度による指定期間が終了するまでに、指定管理者制度の下での博物館運営の在り方を多角的に点検し、問題点・改善点を整理し、博物館活動を活性化する上で必要な制度の在り方を提言することを期待したい。調査研究をベースに中長期的な視点に基づいて活動を行っている博物館であることから、指定期間（4年間）は短い。4年間とされている指定管理期間の在り方等について、今後市当局との間で十分検討されることを期待する。また、大阪市が国に提案してきた地方独立行政法人についても、市当局の検討が進められるのであれば、市当局の検討に当たって、積極的に協力することを期待する。</li> </ul>